

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------|----|--------------|
| ○事業所名 | クオリティ・オブ・ライフ船橋支援教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 2月 3日 | | 2025年 2月 28日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 25 | (回答者数) 19 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 2月 3日 | | 2025年 2月 28日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月15日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 保護者様との情報共有の頻度・お子様についての共通理解 | 日々の連絡や送迎時の情報共有、指導報告書において、ご利用者様の些細な変化やその日頑張ったこと、今後の課題などをなるべく詳細にお伝えするようにしている。また、送迎時に学校やご家庭での様子を伺い、事業所でも連携した支援が出来るようにしている。 | こまめな連絡が取れていないご家庭もあるため、連絡手段や連絡するタイミングについて検討し保護者様との連携を促進させたい。 |
| 2 | 保護者様のニーズとお子様の特性に合わせた支援・満足度 | 子どもの課題に対してその要因を様々な角度から探り、複数の方法で課題の解決に当たっている。子どもの特性に合わせ、学習教材の研究や開発も行っている。目標達成に向けて細かな段階を設け、子どもたちのやる気の維持につなげている。 | 学習を日常生活と関連付け、身近なことに応用できるような教材を用意し、より学習に対して意欲が湧くようにしていきたい。 |
| 3 | 活動プログラムの多様化 | 全スタッフから集団療育のプログラム案を募り、スタッフの専門性を生かした様々なプログラムを企画、実施している。 | 引き続きスタッフの専門性を生かしたプログラムを企画していきたい。また、スタッフ同士で技術や考えを積極的に共有しより良いプログラムにしていきたい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 地域の他の子どもと交流する機会の提供 | 他の施設などとつながりが少なく、また事業所内での活動に重点を置いているため。 | 前社とのつながりやグループ会社の教室とのつながりを生かし、全体の活動のバランスを見ながら他事業所との交流をする機会を提供できるようにしていきたい。 |
| 2 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会の提供 | 教室譲渡に際して保護者説明会をして以来、教室の運営を安定化させるため保護者会を開催する機会が設けられなかった。 | ご希望される方に向けて、年に最低一度は開催できるよう動いていく。 |
| 3 | 教室の狭さ | 教室全体で約50㎡と教室自体が狭い。 | 訓練室、相談室、フリースペースなどを仕切りや床に境界線を引くなどして区分けし、それぞれの空間を伸縮出来るようにして、それぞれの活動に合わせて環境を変えられるようにする。 |